

研修で手がけたイチゴを古田肇知事に届けた松岡孝浩さん(右から2人目)、嶋崎将彰さん(同4人目)、成瀬正宏さん(左)=県庁



元警察官、元税理士法人勤務、元SE

新規就農3人、県庁で決意

全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)が運営する「いちご新規就農者研修所(岐阜市曾我屋)」でイチゴの栽培や出荷に必要な技術、農業経営について学んできた16期生3人が、県庁に古田肇知事を訪ね、自らの手で育てた大粒のイチゴ「美濃娘」を贈った。

16期生は、元警察官で各務原市で就農する松岡孝浩さん(46)＝同市出身＝、税理士法人勤務から転身して妻の実家のある岐阜市で就農する嶋崎将彰さん(43)＝宮崎県出身＝、加茂郡富加町で就農する元シ

岐阜のイチゴ、大きな夢

ステムエンジニアの成瀬正宏さん(44)＝瑞浪市出身＝。

3人は昨年4月に入所し、今月末に14カ月間の研修を終えるのを前にJA全農岐阜の西村寿文県本部長らとともに県庁を訪れた。3人から「自信作」を受け取った古田知事は「ぜひ、高く売りましょう。そのために合資の良さを争って賞も取ってください」とエールを送った。松岡さんは「消費者を笑顔にできるおいしいイチゴを作る」と力を込め、嶋崎さんは「資材も高騰している。経営者としてしっかり農業経営を成り立たせていきたい」と意欲を燃やした。成瀬さんは「岐阜いちごのファンを増やしていきたい」と白い歯

を見せた。

(古家政徳)